

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成 29 年度第 11 回）議事録

日 時：平成 30 年 2 月 23 日（金） 10:00～11:30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第 1 会議室

出席者：中釜斉理事長、門田守人理事、南砂理事、松本洋一郎理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：間野博行理事、児玉安司理事

I. 前回（平成 29 年度第 10 回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 議事録署名人を門田理事と増田監事に依頼。

II. 審議事項

- ・ なし

III. 報告事項

1. 平成 30 年度予算等の検討状況

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・ 財政規律を重視することにより、NCC の組織としての在り方を明確にするとともに、目標等がフォーカスされ、業務を進めやすくなるのではないか。事務面では、NCC の機能を果たすためのロジスティクスも、きちんと押さえることが大切。
- ・ 借入金が増加して限界を超えることがないよう、バランスを取ることが重要。収益確保には不確定要素が多いので、相当の伸び代を要する。財務マネジメントについて、毎年、外部機関からの支援に頼るのでなく、NCC がノウハウを学び、自ら実施できるようにすることが重要。
- ・ 毎年の投資規模に関し、部門からの更新要望水準だけでなく、将来予測を踏まえて設定していくことが重要。NC 自らこうした作業を行わないと、日本の医療は発展しない。例えば、がんゲノム医療について、補助金があるから実施するというだけでなく、積極的に投資をしながら加速するという考え方もある。
- ・ 将来の医療提供体制を見据え、モデル的な規模感を提示することが重要。そのため、継続的に財務管理を担当できる人材の育成も必要。また中期見通しのような情報を厚生労働省とも共有していくことが重要。

2. がんゲノム医療中核拠点病院の選定等

資料に沿って報告された。

3. 「がん情報サービス」への不適切サイトからのリンク削除依頼

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・ネット上の不適切なリンクへの対応の在り方について、更に検討を進めていくことが必要。

4. 全がん協生存率（2007-2009年5年、2001-2004年10年）等

資料に沿って報告された。

5. 日本人がん患者由来 PDX ライブラリー整備事業

資料に沿って報告された。

6. LC-SCRUM-Japan、血液を用いた遺伝子解析

資料に沿って報告された。

7. がん患者さんのサポートと生活の工夫展 2018

資料に沿って報告された。

8. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

9. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・先端医療には多くの関心が向きがちだが、均てん化を考えると段階的に進めることも大切。政治サイドに対しては、政治でなければできない取組を加速するよう説明していくことも重要ではないか。

10. 広報実績

資料に沿って報告された。

11. 1月分月次決算等

資料に沿って報告された。